

2024 年実施 倫理 共通テスト本試験 解答・解説編

【傾向分析】

問題数は 2021 年の第 1 日程以来、同じ 33 問で、大問ごとの設問数・配点ともに同じであり、出題分野も同じで、第 1 問は源流思想、第 2 問は日本の思想、第 3 問は西洋の近現代思想、第 4 問は現代の倫理的諸課題である。また、リード文にあたる内容も会話文や資料で構成されており、例年通りの出題形式となっている。大きな変化はなく、これで従来の形式による出題は最後となる。本年度の難易度は昨年並みである。

2025 年実施から「公共、倫理」としての出題になることから、過去問にしっかりと取り組んでおく必要がある。

第 1 問

大問が二つに分かれてⅠとⅡとなっている。ともに会話文で構成されており、連続した内容である。源流思想から幅広く出題されている。

問題番号	設 問	解答番号	正解	配点
第 1 問	Ⅰ	1	①	3
		2	⑤	3
		3	④	3
		4	①	3
	Ⅱ	5	④	3
		6	②	3
		7	③	3
		8	⑥	3

問 1 1 正解③

ギリシア哲学が他の文化圏に継承された内容の正誤問題になっている。

ア プラトン哲学は、後にプロティノスなどの神秘主義と結びつき、そのあらゆるものは一者（ト・ヘン）から流出するという考えとなる。アウグスティヌスらの教父哲学に影響を与えたので、正しい。

イ イスラームの世界ではギリシア哲学などが研究されるとともに、その内容がヨーロッパ世界へと逆流した。カリフをめぐる争いとギリシア哲学とは関係しないので、誤り。イスラームはシーア派（預言者の家系を重視する少数派）とスンナ派（家系にこだわらない多数派）に分裂した。なお、イスラ

ム哲学者としてはイブン・シーナー（アヴィケンナ）やイブン・ルシュド（アヴェロエス）などが有名である。

ウ アリストテレス哲学の目的論的世界観の影響を受けたトマス・アクィナスは、理性と信仰の調和を図ったので、正しい。

問 2 2 正解⑤

ア 孔子は、周公旦の礼による政治を理想とし、自己の欲を抑え、礼にもどる克己復礼の思想を説いた。正しい。

イ 孟子が性善説を説いたのは正しいが、礼を重視して、礼による社会秩序を理想としたのは荀子である。孟子は孔子の仁を継承した。誤り。

ウ 韓非子は、法による信賞必罰としての支配・秩序を重視する法治主義を説いた。正しい。

問 3 3 正解④

問 1 のアでも述べたアウグスティヌスは、歴史哲学の立場から「地上の国」と「神の国」を説いたが、地上の国とは利己的な目的を追求する悪魔の国としたので、適当でない。

① 墨子が儒家を批判した内容で、正しい。

② アリストテレスは現実主義の立場からプラトンのイデア論を批判したので、正しい。

③ ブッダの慈悲の内容として、正しい。

問 4 4 正解①

資料の読み取り問題となっている。牟子『理惑論』は初めて出題された資料である。問答形式によって儒教、仏教、道教の異同を論じ、仏教のすぐれていることを結論した論書。理惑論とは、「惑い（ごみょう）を理める論」の意味である。牟子の 2 番目の会話に注目するとよい。なお、『理惑論』の作者は牟子とされているが、そうではないというのが一般的で、仏教に関する文集である『弘明集』に収められたもので、儒家や道家の思想と仏教思想との軋轢や論争、受容などについての内容の一つとされている。

a 空欄の前に「生まれ変わる」という内容のインドの生命観とあるので、輪廻とわかる。業（カルマ）は生存中の行為のことである。

b 牟子の発言に「魂はもとより不滅」「魂は種もみのようなもの」「種もみには終わりが無い」とあるので、「死後も魂は存在し続ける」が適当である。

c アートマンとブラフマンの意味からと、諸法無我の意味を理解しておけば解ける。諸法無我はすべてのものはそれ自体で存在する永遠不滅の実体はないというものである。アートマン（我）は我々自身の

奥底にある真実の自己のことで、ブラフマン（梵）とはそれ自身は変化することのない宇宙の根本原理をいう。したがって、文脈からもアートマンが適当である。

問5 5—正解④

イエスの言動から隣人愛を述べた内容として④が適当である。

- ① 「弟子たちに新たな律法を作るよう命じた」が、誤っている。ユダヤ教のファリサイ派の律法主義を批判した内容である。
- ② 「洗礼などの実践を否定した」が、誤り。イエス自身もバプテスマのヨハネから洗礼を受けている。
- ③ 「律法を批判する勇気がある者だけが到達できる境地」としているのが誤り。神の国は人間の自分本位を改めることで、自分の内面に実現すべき世界とした。

問6 6—正解②

ムハンマドは、モーセやイエスなどと同様に預言者の一人であるが、最後で最大の預言者とされている。

- ① ユダヤ教やキリスト教の神の上位にアッラーを置いたとするのが、誤り。ユダヤ教、イスラーム、キリスト教それぞれの神の呼び方は違うが、同じ唯一の神である。
- ③ 「一神教の排他性を批判し、多神教との融和を図った」とするのが、誤り。
- ④ 「イエスと同様に神の子」とするのが、誤り。ムハンマドはあくまでも人間である。

問7 7—正解②

- a ノートに自然哲学者たちが、この世界の全体について筋道立った説明をしたとあるので、ロゴスが適当である。ロゴスとは理性とか言葉と言う意味がある。
- b 資料に自然哲学者たちは、「それが神的なものであるとも考えている」とあるので、「神観念に基づいた自然観」が適当である。

問8 8—正解⑥

資料と会話文の長い内容になっているが、それぞれ組合せ3つをそれぞれ読んでいくとわかる。

- a 縁起の内容であるので、資料1からは「苦しみは、執着を縁として生起する」とあり、執着の原因を知った者は執着を作ってはならないとあるので、イが適当である。
- b 竜樹とあるので、資料2を読む必要があるが、同時に空欄の後に「縁起を同時的な相互依存関係として捉え直した」とあるので、ウが適当とわかる。

- c 空欄の後に、竜樹に限らず、「縁起の思想が次第に深まっていった」とあるので、カが適当とわかる。

第2問

「平和」をテーマとした日本の思想の問題である。大問として3つに分かれているが、Ⅰは会話文で古代から中世にかけての出題である。Ⅱはノート形式で江戸時代が中心になっている。Ⅲはメッセージとして近現代の思想が中心である。例年通りの形式が踏襲されている。

問題番号	設 問		解答番号	正解	配点
第 2 問	Ⅰ	1	9	㉓	3
		2	10	㉖	3
		3	11	㉔	3
	Ⅱ	4	12	㉔	3
		5	13	㉓	3
		6	14	㉔	3
	Ⅲ	7	15	㉑	3
		8	16	㉒	3

問1 9—正解③

日本の神々と災害とを結びつけているが、古代の日本人が考えた神々は、恵みをもたらすとともに災厄をももたらすと考えられていた。

- ① 前半部は、柳田国男の「先祖の話」にある彼が説く先祖の霊は、氏神様となって子孫を見守り、悩み苦しみから守る考え方である。後半部は、折口信夫の「まれびと」の思想である。「まれびと」とは、海のかなたの理想郷に住み、時を定めて村落を訪れ、人々に豊饒や安穏をもたらすと考えられた神の原型のことである。
- ② 祓いとは、祭祀や農耕への妨害は共同体の安穏をおびやかす罪で、それを取り除くために行う儀式である。設問内容は、菅原道真などを祀った御霊信仰と呼ばれるものである。
- ④ 古代の日本人の神観念は、儒教や仏教が受容される以前に形成されていた。

問2 10—正解⑥

- ア 誤り。「阿弥陀仏の他力救済」による民衆の救済ではなく、鎮護国家の思想に基づくものである。鎮護国家のために東大寺の大仏が造立された。聖武天皇の時代の仏教は奈良時代、阿弥陀仏による他力救済は平安末期から鎌倉時代にかけてである。
- イ 正しい。鎮護国家を説き、山岳信仰の立場から高野山に金剛峰寺を建立し、即身成仏を説いた。
- ウ 誤り。源信の説いた念仏は、精神を集中し、阿弥

陀仏の姿を思い浮かべる観想念仏である。「念仏を称えることのみ」(専修念仏)を説いたのは源信ではなく、法然である。

問3 11—正解④

資料として中世を代表する『方丈記』と『徒然草』であり、選択肢では3つの視点で考えるようになっている。一つは無常観とはどのようなものか、資料1・資料2の内容はどのようなものかを読み取っていかなければならない。

無常観とは世の移り変わりの変化のことであり、資料1では、「一間の寂しい庵に住んでいる」ことが、誰もわからないだろうと述べている。資料2は、最後の方に「本性がゆったりとのびやかで限定されることがなければ、喜びも怒りも本性にとって障害とはならず」と述べている点に注意するとよい。④が適当である。

- ① 無常観の内容が誤っている。
- ② 資料1の内容が誤っている。
- ③ 資料1・資料2の内容が誤っている。
- ⑤ 無常観及び資料2の内容が誤っている。

問4 12—正解④

古学派が、「朱子学で説かれる理の考え方に依拠」するとしているのが、誤り。古学派は、『論語』『孟子』などの儒教古典を文献学的に忠実に解説していくことを試みた。「誠を重視」したとあるのは正しい。誠は伊藤仁斎によって説かれた。伊藤仁斎は、朱子学の観念的で外面的な「理」を批判して、身近な人倫日用の道を説き、内面の誠を重視した。

- ① 上下定分に理に基づいた礼儀法度の林羅山の内容で、正しい。
- ② 私利私欲を慎しむ「存心持敬」を説いた林羅山の内容で、正しい。
- ③ 朱子学と神道を結びつけた垂加神道を説いた山崎闇斎の内容で、正しい。

問5 13—正解③

- ア 安藤昌益の内容である。
- イ 職分を認め、勤勉を説いた石田梅岩の内容である。
- ウ 「先も立ち、我も立つ」という相互的な商行為の倫理性を説いた石田梅岩の内容である。
- エ 仙台藩の財政を再建に貢献し、仏や鬼神の存在を否定する無鬼論を説いたのは山片蟠桃で、正しい。

問6 14—正解④

設問の内容は、横井小楠の内容を問うもので、「公共の天理」とはどのようなものかを理解しておかなければ

ならない。なお、井上毅とは、伊藤博文の下で明治憲法を起草に参画し、さらに教育勅語の起草を果たした人物である。

横井小楠は、実学を説き、「堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器機の術を尽くさば、何ぞ富国の止まらん……」と述べ、儒教の教えを理想としている。また、資料にもあるように「公共の天理」に従い、「現在世界で起こっている紛争を解決して見せるという気概がないといけません」と述べているので、④が適当である。

- ① 前半部にある儒教を時代遅れとしている点が誤っている。
- ② 前半部は正しいが、後半部の資料の読み取りが誤っている。
- ③ 横井小楠は、尊王攘夷から戦争の根絶を目的とする開国論に転換している。また、後半部の資料についての説明も「軍事を国家の最優先事項に置くこと」としている点が、誤っている。「むやみに軍事力に任せて国威を張る」ことは「公共の天理」に反するとしている。

問7 15—正解①

石橋湛山は、昭和期のジャーナリストであり政治家で、戦後は大蔵大臣や内閣総理大臣にまでなった人物である。彼は帝国主義政策でもある大日本主義を批判し、自由主義の立場から小日本主義を唱えた。

- ② 丸山真男が、主体性を備えた近代的自我を日本人が「明治維新とともに確立」したと論じたとするのが、誤り。日本人は近代的自我を確立することができず、そのことが「無責任の体系」を生み、ファシズムに陥ったと分析した。
- ③ 戦争が起こる原因を国民に求め、「政府ではなく国民一人一人に戦争の責任がある」などは考えていない。幸徳秋水は堺利彦や内村鑑三とともに非戦論を展開した。

問8 16—正解②

吉野源三郎は『君たちはどう生きるか』で有名で、2023年にはアニメ化されたことで知られている。資料の読み取り問題となっている。資料では、後半部で様々な人間について、「信頼するか、愛するか」の問題だとし、「私の決意による選択の問題」と結論づけている。

この点から②が適当とわかる。『人間の尊さを守ろう』は1948年の著作。

- ① 「不断の外交努力が必要」とは述べられていない。
- ③ 「政治や経済の混乱があろうとも、他者を信じ抜

く態度が重要」とは述べられていない。

- ④ 「他者が信頼に値するかどうかを検証した上で、他者への態度を決定スカル必要がある」とは述べられていない。

第3問

大問は、西洋の近現代思想が中心で、二部構成となっており、Ⅰは会話文、Ⅱは資料となっている。問4のヒュームの資料の読み取り問題や問8のノートから空欄補充の文章選択はやや時間がかかると思われる。基本的な内容を問う設問からやっていくとよいだろう。

問題番号	設 問		解答番号	正解	配点
第 3 問	Ⅰ	1	17	㊤	3
		2	18	㊲	3
		3	19	㊱	3
		4	20	㊤	3
	Ⅱ	5	21	㊶	3
		6	22	㊱	3
		7	23	㊳	3
		8	24	㊤	3

問1 17—正解④

ルネサンス期の内容であるが、「神の恩寵や栄光に基づく美しさを表現した」とするのが、誤り。ラファエロの代表作である「アテネの学堂」は、プラトンやアリストテレスなどの古代のギリシアの哲学者の姿を描いたもので、キリスト教的な世界をえがいたものではない。

- ① ルネサンスの意味を述べた内容で正しい。
② ボッティチェリの説明で正しい。
③ ダンテの『神曲』の説明で正しい。

問2 18—正解②

ア 「対抗宗教改革の中で創設されたイエズス会の厳格な規律」としているのが、誤り。プロテスタンティズムの精神（カルヴァン派）が近代ヨーロッパの資本主義を成立させたとする。

イ 正しい。カルヴァン派は、イギリスではピューリタン、オランダではゴイセンと呼ばれた。

ウ 「職業人」を様々な領域で自身の能力を全面的に発揮するとしているのが、誤り。職業人とは、神へ信仰を基にして自らの職業に専念し、職業倫理に徹する人のことである。

問3 19—正解①

カントの三批判書の一つである『判断力批判』の資料からである。この書は、自然美や芸術を対象とし、それに関わる構想力の働きを分析したものである。資料の「他者の実際の判断と照合するというよりも」

「他のあらゆる人の立場に身を置かなければならない」の記述から①が適当とわかる。

② 「ルソーによって「独断のまどろみ」から目覚めた」とするのが、誤り。ルソーではなくヒュームである。資料の説明は正しい。制約を取り除き、自己の限定された視点を乗り越えることを説いた。

③ 前半部のカントの思想は正しい。資料の「他者が行った判断と照合すべきだ」とするのが、誤り。他者の実際の判断と照合することを否定している。

④ カントの思想については、「物自体は認識に従う」とするのが、誤り。カントは物自体を認識することはできず、対象である物の現象のみであるとした。資料では「ひとは自分の個性に即した独自の美の基準を持つべきだ」とするのが、誤り。「制約を取り除き」「他のあらゆる人の立場に身を置かねばならないとしている」。

問4 20—正解④

資料の後半部である「道徳や良識についての考え方……真の醜さであると認めねばならない」と述べている点に注目すると、④が適当とわかる。

- ① 「なじみのない習慣の描写を含むような作品」が「その作品の価値を損なわれる」とは述べていない。
② 「作品が作られた当時の道徳や良識についての観念を受け入れて自らのものにすべき」とは述べられていない。
③ 「道徳的に問題のある行為が……作品の欠点にはならない」とは述べられていない。

問5 21—正解⑥

a 空欄の前にある「各人は他人に注目し、自分自身も注目されたいと思い始め」との内容に注目すると、ルソーが説く「一般意志」ではなく、「世間の評判」の方が正しい。

b ルソーの説く自然状態は、空欄の後の「他者への思いやり」と自己愛となる。

c ルソーの『人間不平等起源論』の主張の中心を考え、空欄の後の「自由と平等を失った」とする原因は、私有財産にあるので、「土地の所有」が適当とわかる。

したがって、⑥が適当である。

問6 22—正解①

設問に注意しなければならない。「ルサンチマンに基づいているとニーチェが批判した思想」であって、ニーチェ自身の思想を問うているのではない。ニーチェが批判したことと主張した内容を峻別する必要がある。彼が批判し「人類愛を生きるべき」とするのは、

弱者の道徳であるキリスト教的道徳であったので、①だとわかる。

力の意志による新たな価値を創造する内容(②)、伝統的な信仰(キリスト教)が衰え、最高の価値を失った状況であるニヒリズムを耐え抜く必要性を説いた内容(③)、価値の転換を求めて超人を目指した内容(④)は、いずれもニーチェの思想である。

問7 23－正解③

ア ベンサムの量的功利主義を批判して、質的功利主義の内容になっているので、正しい。

イ J.S. ミルは愚行権ともいわれる内容を説くとともに、他者危害の原則を主張しているので、「利他的な動機に基づくものである限り、容認される」とするのが、誤り。

ウ 「個人が自らの個性的な生き方を追求する要求するあまり」とするのが、誤り。ミルは、多数者の専制を批判し、少数者の意見をも重視して、「多様な意見を持つ者の間の議論の意義を唱えた」。

問8 24－正解④

Fの発言に注意してみるとよい。会話文では、2番目の「他の人が何に美を感じているのかを知ることによって視野が広がるということもある」と述べ、3番目には「日々知識を深めながら、自分とは異なる考え方も吟味して、よりよい見方を目指している」とあり、ノートの空欄の後に「相手のことも自身のことも、よく知る手立てになる」に注目すると、④が適当とわかる。

- ① 「相手の考えに惑わされることなく自分の意見を語る」とはふさわしくない。
- ② 「相手からの同意を引き出す」とする内容もふさわしくない。
- ③ 「専門家の語った言葉を模範」に「切磋琢磨する」との内容もふさわしくない。

第4問

「後悔」をテーマとして現代社会の諸課題、青年期などの問題で構成されている。会話文を中心にしており、設問数が他の大問より1問多い。しかも、配点が4点もある問8・問9は注意しておかなければならない。内容的には、現代の倫理的課題としての内容で幅広く出題されている。問5のクーリーはアメリカの社会学者で社会集団を第一次集団・第二次集団に分類し、「鏡に映った自己」を説いた人物である。

問題番号	設 問	解答番号	正解	配点
第4問	1	25	①	3
	2	26	②	3
	3	27	⑤	2
	4	28	⑥	3
	5	29	④	3
	6	30	④	3
	7	31	①	3
		32	②	4
	8	33	③	4

問1 25－正解①

a フランクルのことなので、アが適当である。彼はアウシュヴィッツ絶滅収容所の経験から、生きる意味を問い、「人生が私たちに何を期待しているか」という人生のコペルニクスの転回を説いた。

b ヴァイツゼッカーは、当時の西ドイツの大統領として敗戦から40周年にあたる際に、「荒れ野の40年」の演説で「過去に対して目を閉じる者は、現在を見る目をもたない」と述べた。ウが適当である。

イ 人間の生存と尊厳に対する脅威から人間の安全保障を説いたのは、インド出身の経済学者アマルティア・センである。

エ 「死を待つ人の家」の創設とあるので、カトリックの修道女でインドに赴いたマザー・テレサである。

問2 26－正解②

少子化の原因の一つとしてワーク・ライフ・バランスの改善を示しており、正しい内容である。

- ① 介護保険制度の中に「高齢者の自立支援の考え方が盛り込まれていない」とするのが、誤り。
- ③ 1960年代の合計特殊出生率が下がった原因は、ひのえうまの年の1966年の時だけで、その後持ち直したが、2005年に過去最低となり、しだいに出生率が低下していった。
- ④ ノーマライゼーションの考え方が誤っている。これは障がい者や健常者などすべてが人間として通常の暮らしとともに、社会がノーマルであるとする考え方である。

問3 27－正解⑤

ア ユビキタス社会の内容が、誤り。ユビキタス社会とは「いつでも、どこでも、何にでも、誰でも」ネットワークにアクセスできる社会のことである。

イ ブーアスティンは、アメリカの社会学者で、メディアが提供する情報を本当なものとして現実をテレビの視点で見ようとするを「擬似イベント」と呼んだ。正しい。

ウ 現在のX(ツイッター)やメタ(フェイスブック)などは双方向のソーシャル・メディアと呼ばれ

るものであり、正しい。

問4 28—正解⑥

- a それぞれの表の数値を比較するとわかるように、イが正しい。
- b 資料の「どんな情報が必要なのか自分たちで考え、その上で、実験者に追加の情報を開示するよう求めなければならなかった」とあるので、ウが正しいと判断できる。
- c 以上のことから、物事の決定の仕方に影響を受けるのは直面した状況とそれと関係のない状況なので、カが正しい。

問5 29—正解④

- ア 青年期の発達課題とあるので、ハヴィガーストである。10個の課題をあげているが、古典的な内容もあるので注意が必要。
- イ 脱中心化とあるので、ピアジェである。

問6 30—正解④

- ア 同一視の内容で正しい。
- イ フラストレーション（欲求不満）の内容で正しい。
- ウ 逃避ではなく、アイデンティティの拡散（危機）のことである。逃避は、現実への対応を避け、その状況から逃れようとする。

問7(1) 31—正解①

- ハイデガーの思想を問うている。①は、科学技術の時代に生きる現代人が「存在」を問うことを見失っている存在忘却の説明になっている。
- ② サルトルの思想内容である。
 - ③ 世人（ダス・マン）を「自己の本来的なあり方へ目を向けるようになった人間」としているが、誤り。その逆であって、「死への存在」を忘れた没個性的な人間のことである。

- ④ 「故郷の喪失」とは、存在忘却のことでもあり、人間が本来の自分とその拠り所を見失っていることなので、日常性という基盤を見失った人間ではない。

(2) 32—正解②

資料の中ほどにある「私が望みしからぬ人物であるからこそ、後悔は苦しいものになる」に注目しておきたい。すると、②が適当とわかる。なお、J. ラズは、イスラエル生まれのオックスフォード大学の教授で実践哲学を体系化した哲学者といわれる。

- ① 「私がどのような人物であるかに変化がもたらされることはない」とは述べられていない。
- ③ 「私が行為する以前……それによって後悔することはない」とは述べられていない。
- ④ 「私が苦しい思いを抱えるのは、この世界に望みしからぬ人物が存在する」などとは述べられていない。

問8 33—正解③

会話文中のGの発言を中心にみていく、最初の会話文の最後でGは「後悔には大事なものが隠されて」いることを言っている。問7にある会話文でGは「自分が何者なのかが決まってしまうと考えれば、後悔という反応を示すのも理解できる」と言い、最後の会話文では「それって本当は、……否定しないあり方が後悔」とある発言に注目すると、③が適当と判断できる。

- ① 空欄aの後のHの発言からすると、適当とはいえない。
- ② 「後悔は苦しみをバネ」にするとは言えないので、適当とはいえない。
- ④ Gの発言から「後悔は現実の世界から自分を独立させる試み」とは言えないので、適当ではない。